

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

令和2年度病虫害発生予報第3号

令和2年5月28日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	葉いもち	並	並
	ヒメトビウンカ	—	やや多
	ツマグロヨコバイ	—	少
	ニカメイガ	—	並
ジャガイモ	疫病	並	並
モ モ	灰星病	—	やや多
	黒星病	やや早	やや少
	せん孔細菌病	—	多
	モモハモグリガ	やや遅	少
	ナシヒメシクイ	—	並
	カメムシ類	—	多
ブドウ	べと病	並	並
	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	フタテンヒメヨコバイ	やや遅	やや少
トマト	疫病	並	並
	灰色かび病	—	やや少
	葉かび病	—	やや多
キュウリ	べと病	—	やや少
	褐斑病	やや遅	並
	炭疽病	並	並
ダイコン	軟腐病	—	並
	コナガ	—	並
野菜全般	アブラムシ類	—	やや少
	モザイク病	—	やや少
	ミナミキイロアザミウマ	—	並
キ ク	白さび病	—	並
	ナミハダニ	並	並

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合は発生をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 育苗箱施用剤の残効は40～60日とされており、5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果が低下すると考えられるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

(2) ヒメトビウンカ

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ（第1世代成虫） やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は579.0頭であり、平年(56.3頭)よりやや多かった。

(3) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ（第1世代成虫） 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場において5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生量は0頭であり、平年(16.4頭)より少なかった。

防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年少発生が続いている。

(4) ニカメイガ（越冬世代成虫）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月5半旬までに平年同様誘殺を認めていない。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月15日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 発生圃場では、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査においては芽枯れ、枝病斑の発生を認めず、平年（発生圃場率2.0%）並であったものの、5月8日の巡回調査における花腐れの発生圃場率は17.9%で平年（12.9%）よりやや高かったことから、幼果への感染量は平年よりやや多いと考えられる。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発生を助長する条件となる。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 **やや早** 発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや早めに推移している。

イ. 5月21日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平年並であった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日（果実生長第2期以降は20日）とされている。5月の降水量は平年より少なかったため、幼果への感染は平年より少ないと考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 **多**

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査によると、発病葉の発生圃場率は25.0%で平年（16.4%）より高く、一部圃場では発病果も認められている。

イ. 5月21日の季節予報によると、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発生を助長する条件となる。

ウ. 県南部の7月下旬のモモせん孔細菌病の発生と関係の高い「昨年の8月中旬の発生圃場数」は多い（岡山県病害虫防除所調査）。

防除上の参考事項

ア. 病害虫発生予察注意報第1号（4月22日発表）参照。

(4) モモハモグリガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期 **やや遅** 発生量 **少**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は0頭で、平年（4.9頭）より少なかった。

イ. 5月21日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（9.6%）より低かった。

ウ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

(5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は3頭で、平年（1.8頭）並であった。

イ. 5月21日の巡回調査によると、心折れの発生圃場率は0%で平年（7.4%）より低かった。

ウ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する

条件である。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は108頭で、平年(19.9頭)より多く、ツヤアオカメムシの誘殺数は100頭で平年(7.9頭)より多かった。フェロモントラップでのチャバネアオカメムシ誘殺数は1,011頭で、平年(198.4頭)より多かった。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 病害虫発生予察注意報第2号(5月13日発表)参照。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は概ね平年並に推移している。

イ. 県予察圃場のピオーネ、ネオマスカットにおいて、平年と同様に5月下旬まで発生を認めていない。

ウ. 5月21日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

エ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病をやや助長する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は概ね平年並に推移している。

イ. 5月の日照時間は平年並で、本病の発生を特に助長する気象条件ではない。

ウ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病を抑制する条件となる。

(3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は概ね平年並に推移している。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病をやや助長する条件となる。

(4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査によると、被害発生圃場率は0%で、平年(9.4%)より低かった。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

3. 野菜

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査では発生を認めず、平年(5.6%)並であった。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 灰色かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査によると、発生圃場率は18.2%で平年(47.3%)よりやや低かった。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件ではない。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査によると、発生圃場率は45.5%で平年(22.9%)よりやや高かった。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、やや発病を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 本病の初発生時期(雨除け栽培トマトでは6月下旬~7月上旬)と病勢進展時期(7月下旬~8月上旬)に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査では発生圃場率は20.0%で平年(29.8%)よりやや低かった。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査では発生を認めず、平年(8.7%)並であった。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 被害葉は初期に除去し、処分する。

イ. 岡山県下ではアミスター20フロアブル、トップジンM水和剤、カンタスドライフロアブル、ゲッター水和剤耐性菌が広く確認されているが、ジマンダイセン水和剤、ダコニール1000などによる病原菌感染前の予防散布が有効である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降雨が連続する場合には発病を助長する条件となる。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査では発生を認めず、平年(12.9%)より低かった。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(2) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～4半旬のフェロモントラップへの誘殺数は42頭で、平年(40.4頭)並であった。

イ. 5月21日の巡回調査では発生を認めず、平年(27.8%)よりやや低かった。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量	アブラムシ類	やや少
	モザイク病	やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は186頭で、平年(503.4頭)より少なかった。

イ. 5月21、22日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平年並であった。モザイク病は発生を認めず、発生圃場率は平年(キュウリ:5.8%、トマト:0%)並であった。

ウ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、特に本虫の発生を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月22日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査では発生圃場率は7.7%で平年(9.4%)並であった。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21、22日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(0.4%)並であった。

イ. 5月21日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、特に本虫の発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

